



PEACEBOAT PEACE おりづるプロジェクト

## ヒバクシャ地球一周 証言の航海

Global Voyage for a Nuclear-Free World  
PeaceBoat Hibakusha Project

ピースボート

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場 3-13-1-B1  
TEL03-3363-7561 FAX03-3363-7562

2013. 10. 10

## 第6回「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」 プロジェクトの概要とその成果

- クルーズ 第80回ピースボート「地球一周の船旅」
- 期 間 2013年7月18日(木)～10月10日(木)
- 寄港地数 19カ国\*20寄港地 (\*日本を含む)
- 使用客船 オーシャンドリーム号
- 参加被爆者 9名 (内訳: 広島被爆6名 長崎被爆3名)  
広島被爆 壺井進、浅海頼子、笹森恵子、八幡照子、高村秀樹、岡本忠  
長崎被爆 大村和子、池田昭、宮田隆  
(部分参加: 壺井進 横浜～フンシャル、笹森恵子 横浜～クシャダス、岡本忠 ピレウス～横浜)  
参加被爆者は「非核特使」に委嘱
- ユース参加者 瀬戸麻由 (2013年8月3日、「ユース非核特使」に委嘱)
- 証言活動 12カ国14都市にて実施
- プロジェクト通称 おりづるプロジェクト
- 主な成果
  - ①戦争体験の継承に関する議論を深め、若者の役割を浮き彫りにした
    - ・アウシュヴィッツ強制収容所を訪問、ホロコースト生還者・地元学生らと交流  
日本人公式ガイド中谷剛氏とともに、アウシュヴィッツと広島・長崎の継承のあり方を比較、議論。
    - ・ユース非核特使の参加  
日本政府が新設した制度を活用し、広島の被爆3世が参加。若者が被爆者と共に実相を伝えるという新しい証言の形を模索。
    - ・世代を超えた和解の模索  
広島・長崎への原爆投下機に搭乗していた米技師の孫アリ・ビーザー氏が地球一周に同行したほか、トルーマン大統領の孫クリフトン・トルーマン・ダニエル氏と船上で交流。
    - ・各国の学生との交流・意見交換  
部分乗船したイランやドイツなどの学生との交流、各国での戦争体験の継承について意見交換。
    - ・船旅参加の若者らによる積極的行動  
船内での紙芝居制作、帰国後の広島・長崎ツアー計画など。
  - ②核兵器禁止条約への機運を促進した
    - ・核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)と協力し、核兵器の非人道性に焦点を当てたアピール  
メキシコでは、同国で2014年2月に開催される「核兵器の非人道性に関する国際会議」を応援するため、外務省を訪問し外務次官や名誉大使らに面会。核兵器の禁止に向けたリーダーシップを求め、同国マンサニョでは、「国際平和の日」(9月21日)に平和と友好のフェスティバルを開催。
    - ・平和首長会議加盟への促進  
核兵器禁止条約の促進に取り組む平和首長会議と連携。各寄港地において核なき世界に向けたメッセージを発信し、トルコ1、エルサルバドル1、メキシコ8市の新規加盟を獲得(2013.10.10横浜帰港時点。さらに増える予定)。

## ●参加被爆者略歴



### 大村 和子(おおむら かずこ)

長崎被爆 1927. 10. 1生まれ 被爆当時17歳

兵庫県西宮市在住

入市被爆。食糧調達のため市外へ外出していたところ原爆投下。爆心地から約500mの地点にあった自宅は壊滅。家族5人が爆死。自身は12日に入市した際に被爆。頭上を飛ぶ敵機から身を隠しながら、黒く焼けた死体の中を歩きながら自宅へ。瓦礫の中から両親弟妹の遺体を探し出し、火葬後遺骨を持ち帰った。これまで証言経験は少ないが、いまあらためて自身の体験を若い世代へ語り伝えたいと考え参加を決意。



### 壺井進(つぼい すずむ)

広島被爆 1928. 7. 17生まれ 被爆当時17歳

兵庫県西宮市 在住

爆心地から約4.5km地点にある工場にて被爆。原爆による火災のため、当日は知人宅に避難。翌日帰宅すると母親が亡くなっていた。その後、若くして父親も亡くなり、病弱ながらも苦しい生活を強いられた。1983年から証言活動をはじめ、各国の学生などと灯籠を使って交流を続けてきた。西宮市原爆被害者の会事務局長を経て現在相談役を担っている。2011年実施の同プログラムに参加。

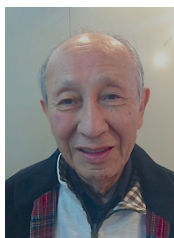


### 浅海 頼子(あさみ よりこ)

広島被爆 1928. 11. 17生まれ 被爆当時16歳

山口県柳井市在住

戦時中は学徒動員として広島通信病院に勤務。当日は久々の休暇で、自宅にいた際に被爆。病に伏していた母を肩に抱え、火傷した2人の弟と共に友人宅へ避難。終戦後は家族とともにバラック生活を過ごす。これまで当時の様子を思い出すのが辛く証言する機会を避けてきたが、今回を機に、証言活動を始めたいと考え参加。



### 池田 昭(いけだ あきら)

長崎被爆 1931.9.27生まれ 被爆当時13歳

東京都世田谷区在住

爆心地から3kmの地点にある神社前で被爆。夜に母、妹弟を連れて頻発する爆発音のなか疎開先へ避難。数日後、知人が次々と亡くなる中、遺体を小学校の校庭に運び火葬した光景は今でも忘れられない。2008年に実施した同プログラムに参加。他、証言を英語へ翻訳する作業や、自治体へ平和和市長会議加盟を呼びかける活動に携わる。



### 笹森 恵子(ささもり しげこ)

広島被爆 1932. 6. 16生まれ 被爆当時13歳

アメリカ合衆国ロサンゼルス在住

1955年に「原爆乙女」のひとりとして治療渡米。帰国後、1958年に再渡米しノーマン・カズンズの養女となる。その後、看護師として病院に勤務。退職後も原爆証言活動を続け、命の大切さを伝える活動に取り組んでいる。2008年ジュネーブ国連本部における核不拡散条約(NPT)の軍縮・不拡散教育セミナーでパネリストとして発言。



**八幡 照子(やはた てるこ)**

広島被爆 1937. 7. 25生まれ 被爆当時8歳

広島県安芸郡在住

爆心地より2.5km地点にある自宅の裏庭にて被爆。5~6m吹き飛ばされ額に出来た傷跡は今も残っている。黒い雨に濡れつつ、全身に大火傷を覆った人びとの行列の中、避難。傷跡の治療の為に通った救護所の小学校の校庭が火葬場になっていたことに衝撃を受ける。戦後の苦しい生活を経て、結婚、子育て、仕事と、これまで証言する機会は少なかった。あらためて次世代への継承に取り組むべく、今回プログラムに参加。



**宮田 隆(みやた たかし)**

長崎被爆 1939. 10. 2生まれ 被爆当時5歳

長崎県雲仙市在住

爆心地より2.4kmの地点にある自宅で被爆。幸いにも家族は無事。大学卒業後、三菱電機に入社。仕事で訪れたレバノンの子どもたちとの交流を通し平和の尊さを痛感。退職後、2005年より本格的に証言活動を開始。自身で業者に依頼し制作した原寸大のファットマンの模型とともに県内の小中学校、高校を中心に証言活動に尽力。



**高村 秀樹(たかむら ひでき)**

広島被爆 1943. 11. 8生まれ 被爆当時1歳

広島県広島市在住

爆心地より2.6kmの地点にある自宅にて被爆。家族・親戚は、幸いにも全員無事だったが、屋外で被爆した母は火傷痕が生涯残った。記憶がなく証言経験は少ないが、長年つとめた民生委員など地域の役員を通して被爆者の福祉に携わり数多くの証言を聞いてきた。今回を機に、証言の継承活動に尽力していきたいと思っている。



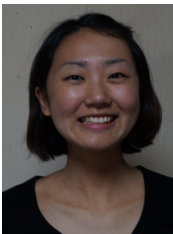
**岡本 忠(おかもと ただし)**

広島被爆 1944. 3. 23生まれ 被爆当時1歳

広島県広島市在住

爆心地から2kmの地点にある自宅にて被爆。左手と頭に残った傷跡は、その後の人生の大きなストレスとなる。幸いにも家族は全員無事。両親が当時の様子を話す事は少なく、自身で勉強していく中で被爆者として行動する事の意義を実感。現在は広島平和記念資料館所属の「ヒロシマ・ピース・ボランティア」や福島県南相馬市でのボランティア活動等に尽力。

●ユース参加者略歴



**瀬戸 麻由(せと・まゆ)**

広島呉市生まれ 1991. 6. 17生まれ 現在22歳

広島被爆三世。当時19歳だった母方の祖母が、原爆投下後に炊き出しや救護のために広島市内へ入市し被爆。自身が被爆三世であるということは小学生の頃に母から聞かされて知ったが、特に祖母から被爆証言を聞く機会はなかった。2010年、早稲田大学国際教養学部へ入学。翌年1月よりピースボートに乗船。船内で出会った被爆者から数多くの証言を聞き、あらためて原爆・核問題に強い関心を持つようになる。クルーズ乗船中に東日本大震災、福島第一原発事故に遭い、社会が抱える諸問題と自分との繋がりを発見。下船後は、大学など都内数カ所で行ったほか、広島で核問題に関心を持つ若者が中心となり企画したイベントに参加。2012年、アイルランド留学を経験後、ボランティア通訳として2度目のピースボートに乗船。下船後は、海外において国際問題に関する実地研修を積み重ねた経験を生かし、沖縄で村おこしのインターンに参加するなど幅広い分野で活動していた。今回の航海は、被爆三世としての自己と核問題との関わりをあらためて見つめ直し、核に対する問題意識をより多くの若者と共有するべく参加。

## ●寄港地での活動

### 7月24日 ダナン(ベトナム)

証言者：浅海頼子さん、瀬戸麻由さん／参加人数：約100名

ダナン枯れ葉剤被害者支援協会による受け入れのもと、証言交流会を実施。枯れ葉剤被害者支援センターを訪問し、子どもたちと交流する中で枯れ葉剤の世代を超えた影響や課題について共有。証言会后、ダナン青年連盟主催のもと行われた大交流会場にて約500名を前に、故・山口仙二氏の「ノーモアヒバクシャ」のメッセージとともに長崎市長の手紙を贈った。

### 7月28日 シンガポール

証言者：笹森恵子さん、壺井進さん、瀬戸麻由さん／参加人数：約100名

国立図書館委員会(National library board)受け入れのもと、パネルディスカッション「未来のために過去を学ぶ」を実施。緊張関係が続く東アジアでいかに市民が連帯できるか、活発な意見交換が行われた。学生から出た「本当に戦争がなくなると思いますか」との質問に対し、「ただ座っているだけでは何も変わらない。一人一人が立ち上がり繋がっていくことが大事」と笹森さんが答え会場が一体となった。

### 8月3日 コーチン(インド)

証言者：宮田隆さん、瀬戸麻由さん／参加人数：約200名

現地の市民団体「アート・オブ・リビング(Art Of Living)」受け入れのもと、小中学生、教育関係者らに向けて証言交流会。ユースが写真や絵を使いながら実相を伝えた。被爆者の証言の中で日印原子力協力協定にも触れ、南アジアでの核拡散への危機感を共有した。映画「爆心 長崎の空」(日向寺太郎監督。英語版)も上映。小学生から「遠い戦争の話が身近な問題に近づいた」などの感想が聞かれた。

### 8月15日 リマソール(キプロス)

証言者：大村和子さん、瀬戸麻由さん／参加人数：約20名

リマソール市クリストウ市長受け入れのもと、市庁舎で証言会を実施。近隣諸国の原子力開発の動向を懸念しているとの市長の言葉を受け、平和首長会議などを通じた連帯を呼びかけた。また、キプロス紛争の当事者とともに分断線グリーンラインを見学。紛争の現状を目の当たりにする一方で、分断線で隔てられたギリシャ側、トルコ側双方で活動する若者らと交流し、平和構築に関する意見交換を行った。

### 8月17日 クシャダス(トルコ)

証言者：笹森恵子さん、高村秀樹さん、瀬戸麻由さん／参加人数：約100名

地元市民受け入れのもと、大学生らに向けて証言・意見交換会を実施。質疑応答の際には、「原発と原爆の関係をどのように考えているか」「町も人もどのように復興したのか」など、活発に質問や意見が飛び交った。また、証言会場にてコナック市ハカン・タタン市長と面会し、その場で平和首長会議の加盟書に署名。日本、トルコ間で原子力協力が進められる中で、市民間の連帯の重要性を共有した。

### 8月18日 ピレウス(ギリシャ)

証言者：池田昭さん、瀬戸麻由さん／参加人数：約100名

核戦争防止国際医師会議(IPPNW)ギリシャ支部などの現地NGO協力のもと、紛争の続く中東地域における非核・非大量破壊兵器地帯構築のための取り組みの一環として証言会が行われた。副大統領や外務大臣からのメッセージが読まれるなど、市民・行政が一体となって平和構築に向けて取り組んでいる様子が伺えた。ニケアのジョージ・ロアケイミディス市長に平和市長会議への加盟を呼びかけた。

### 8月22日 チビタベッキア(イタリア)

証言者：壺井進さん、瀬戸麻由さん／参加人数：約70名

チビタベッキア市と宮城県石巻市が姉妹都市であることから、市の受け入れのもと、石巻出身の若者らと共に証言会を実施。石巻ユース・アンバサダーからは被災地の現状を、被爆者からは原爆と原発の関係や命の尊さを訴えた。また、10月にチビタベッキア市が後援する核兵器廃絶に関するイベントに向けて、国会議員やジャーナリストと懇談し意見交換を行った。

8月25日 マルセイユ(フランス)

スピーチ: 壺井進さん、瀬戸麻由さん

再生可能エネルギーや有機農業の体験学習の活動を行っているNGO「ルバタス」を訪問し、意見交換を行った。原発の是非についてディスカッションするとともに、この施設の近くにある国際熱核融合実験炉(イーター)についてプレゼンテーションなどが行われ、将来のエネルギーのあり方について学んだ。

8月26日 バルセロナ(スペイン)

証言者: 岡本忠さん、瀬戸麻由さん、アリ・ビーザーさん／参加人数: 約70名

バルセロナ市内の「サダコ学園」で証言・交流会を実施。テヘラン平和資料館で活動する5人のイランの若者、福島県南相馬市で被災した大学生らもそれぞれの平和に対する思いを語った。また、爆撃機エノラ・ゲイ、ボックスカー両機に搭乗していた唯一の米兵の孫であるアリ・ビーザーさんより、佐々木禎子さんの家族が世界中に折り鶴を贈っていることを紹介。現地メディアからの取材多数。

8月27日～31日 オシフィエンチム(ポーランド)／アウシュヴィッツ特別欧州プログラム

証言者: 大村和子さん、八幡照子さん、瀬戸麻由さん／参加人数: 約20名

歴史教育のあり方や戦争体験の継承の方法を学ぶため、アウシュヴィッツ強制収容所を訪問。唯一の日本人公認ガイドである中谷剛さんより、博物館の展示の仕方や次世代への継承の取り組みについて伺った。また、ホロコースト生還者や地元学生らとの証言交流会を通し、当時の社会状況や被害の実相を学ぶと共に、現在の学校教育の実情や課題について意見交換が行われた。

9月9日 サントドミンゴ(ドミニカ共和国)

証言者: 浅海頼子さん、瀬戸麻由さん、アリ・ビーザーさん／参加人数: 約100名

小型武器規制キャンペーンに携わる法律家団体「カリブ法治研究所(Instituto Caribeno para el Estado de Derecho)」の受け入れで証言会を実施。被爆者から原爆被害の証言と、福島の大学生による報告を受け、原子力について多角的に考察する場となった。学生から「被爆者として原発についてどう思うか」「何を支えに(原爆、原発の被害から)生き抜いて来たのか」などの質問があがった。

9月17日～18日 アカフトラ、サンサルバドル(エルサルバドル)

証言者: 高村秀樹さん、岡本忠さん(17日／約200名)／八幡照子さん(18日／約70名)

17日は、エルサルバドル内戦の被害者団体受け入れのもと、内戦当事者と合同証言会を実施。出席したアカフトラ市長が、ユース非核特使の呼びかけに応じ平和首長会議への加盟を明言。翌18日は、エルサルバドル政府の受け入れで外務省にて証言会。同国内務大臣を中心に、平和首長会議の加盟促進に尽力することを約束。両日ともにクリフトン・ダニエル・トルーマン氏、軍縮教育家キャスリン・サリバン氏が同席。「アメリカの市民として、このような対話に同席できて非常に感慨深い」との発言があった。

9月20日～21日 メキシコシティ、マンサニージョ(メキシコ)

証言者: 宮田隆さん、池田昭さん、山下泰昭さん(メキシコ在住の長崎の被爆者)、瀬戸麻由さん

20日、外務省を訪れ、世界初の非核地帯条約(トラテロルコ条約)について学んだほか、イ・デカサ外務筆頭次官らに面会し2014年2月の「核兵器の非人道性に関する国際会議」への期待を表明。「記憶と寛容の博物館」では約150名の市民を前に証言会を実施。翌21日はコリマ州のマリオ・アンギアノ知事の後援の下、マンサニージョ工科大学で証言会を実施。大学生ら約700名が集まった。また、コリマ州内の全10市が平和首長会議に加盟したことを祝し、平和と友好のフェスティバルを開催、賞状と長崎市長からの手紙を贈った。

そのほかの寄港地 :

バレッタ(マルタ)／モナコ／マラガ(スペイン)／カサブランカ(モロッコ)／フンシャル(ポルトガル)／モンテゴベイ(ジャマイカ)／クリストバル(パナマ)／石巻(日本)

## ●船内での活動

### 《企画一覧》

#### 1. 証言を伝える

- 証言会:「シゲコ！」(7/22)
- 証言会:「あなたの大切なものは何ですか」(8/5)
- 企 画:紙芝居「瞳の中の子どもたち」(8/6)
- 証言会:「被爆電車と復興」(8/7)
- 証言会:「僕とインドと宮田さん」(8/11)
- 証言会:「若い人に伝えたい」(8/12)
- 証言会:「ヒバクシャストーリーズ」(9/16)
- 企 画:「被爆者から若者へ～脱原発、自然エネルギーへの挑戦」(9/27)

#### 2. プロジェクトの意義や成果を一般参加者と共有する

- 講 座:「はばたけ！おりづるプロジェクト」(7/19)
- 報告会:「おりづる報告会 ～ベトナム編～」(7/26)
- 報告会:「ヒバクシャの証言を聞いて僕たちが思ったこと」(7/27)
- 映画上映:「フラッシュ・オブ・ホープ」(7/30)
- 報告会:「おりづる報告会 ～シンガポール編～」(8/1)
- 企 画:「原爆ってなあに？」(8/4)
- 企 画:「ピースセレモニー」(8/6)
- 展 示:「ミニミニ原爆展」(8/6～8/9)
- 企 画:「ピースセレモニー」(8/9)
- 企 画:「気になるあの子をご紹介！」(8/16)
- 報告会:「わたしたちの見たアウシュヴィッツ」(9/4)

#### 3. 被爆者と一般参加者の交流を深める

- 交流会:「おりづるパートナー集まれ！」(7/19)
- 交流会:「おりづるひろば」(7/23)
- 交流会:「おりづるひろば」(7/30)
- 交流会:「おりづるひろば」(7/31)
- 企 画:「おりづる折りましよ」(8/4)
- 企 画:「千羽鶴をつくろう！」(8/6)
- 交流会:「被爆者と話そう！」(8/6)
- 交流会:「おりづるひろば」(8/9)
- 交流会:「おりづるひろば」(8/13)
- 企 画:「恵子おばあちゃんに聞いてみよう！」(8/16)
- 交流会:「おりづるひろば」(9/3)
- 交流会:「おりづるしゃべりば」(9/4)
- 交流会:「おりパミーティング」(9/24)
- 交流会:「おりづるひろば」(9/25)
- 企 画:「かみしばいを作ろう！」(9/25)
- 交流会:「おりづるひろば」(9/26)
- 企 画:「かみしばいを作ろう！」(9/26)
- 交流会:「おりづるひろば」(9/27)
- 企 画:「かみしばいを作ろう！」(9/27)

#### 4. 原発を含めた核に関する問題や戦争体験の継承について理解を深める

講 座:「アウシュヴィッツが教えてくれること～ホロコーストを次世代へ伝える～」(7/21)

講 座:「世界の核は今」(7/25)

意見交換:「クローズドセッション with 枯葉剤被害者」(7/26)

講 座:「戦争を知らない世代からあなたへ」(7/27)

映画上映:「はだしのゲンが見たヒロシマ」(8/6)

映画上映:「ゼノ ～かぎりなき愛に～」(8/8)

映画上映:「爆心 長崎の空」(8/9)

意見交換:「クローズドセッション with イラン&ドイツ学生」(8/19)

講 座:「広島・長崎に原爆を落とした米国人クルーズの声」(9/7)

意見交換:「クローズドセッション with 地球大学生&福島ユース&石巻ユース」(7/26)

映画上映:「究極の願い 核の時代を終えるために」(9/10)

講 座:「3世代を超えて～本当の和解が未来をつくる～」(9/12)

意見交換:「クローズドセッション with クリフトン・トルーマン・ダニエルさん、キャサリン・サリバさん、ピーター・ヤーロウさん、武者小路公秀さんら」(9/13)

ワークショップ:軍縮教育家キャサリン・サリバさんによるワークショップ①(9/12)

ワークショップ:軍縮教育家キャサリン・サリバさんによるワークショップ②(9/14)

ワークショップ:軍縮教育家キャサリン・サリバさんによるワークショップ①(9/15)

ワークショップ:軍縮教育家キャサリン・サリバさんによるワークショップ①(9/16)

#### ●詳細

ホームページ <http://www.peaceboat.org/projects/hibakusha/>

ブログ(日) <http://ameblo.jp/hibakushaglobal/>

ブログ(英) <http://www.breakingthenuclearchain.org/ja/global-voyage>

